

多世代交流拠点

ステップ

～それぞれの歩幅でつながる居場所～



設計主旨

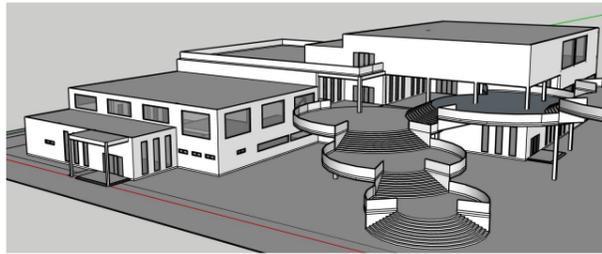
私が小学生の時は、放課後は友達と公園に集まって外を走り回っていた。しかし、気温上昇やネット環境を利用したオンラインゲームの普及など様々な要因により、そのような光景を見る機会は減っていった気がする。学校が終わればまっすぐ家に帰り、休日も家で過ごす。それは決して悪いことではないが、どこか寂しさを感じるのは私だけだろうか？そこで私は、多世代交流拠点「ステップ」を提案したい。

多世代交流拠点「ステップ」は、年齢関係なく多くの人たちにとって過ごしやすい空間の提供を目的とした公共施設である。たくさんの本が並ぶ「図書棟」は、小さい子どもが楽しめる児童書コーナーや学生が静に勉学に集中できる自習室、企画展示などができる展示室が備えられている。半円型が特徴的な「交流棟」では、中央の芝生広場を活用したイベント等が行われる。その他にも、運動に適したジムスペースやカフェ、小さい子供が遊べる屋内プレイルームは、子育て中の親にとっても、安心して過ごせる空間となっている。また、文京町に隣接することで、小学生から大学生までが放課後に来やすい施設となり、学生主体のイベントも行いやすくなる。

「ステップ」には、「成長」という意味も込められている。幼少期にも、大人になってからも、松山に住むすべての人たちの成長を見守るような、ここで過ごすすべての人たちが、それぞれの過ごし方で交流の輪を広げていけるような施設になることを願う。

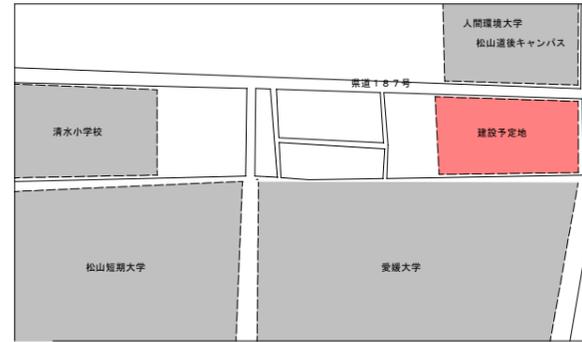
「ステップ」について

①図書棟



図書棟1階

図書棟の南入り口を入ると、ガラス張りの中庭が視界に入る。中庭は三階までの吹き抜けとなっており、一階から二階にかけて階段に面したスキップフロアがある。ソファで静かに本を読むのも、小声でならば、友人と談笑するのもいいだろう。



建設予定地

松山市道後樋又
学生の集まる文京町に隣接するこの地に建設することで、学生が通いやすい施設となると同時に、県道に面することで、車に乗る方々の興味を引くような施設となる。

コンセプトは「学びを身近に」

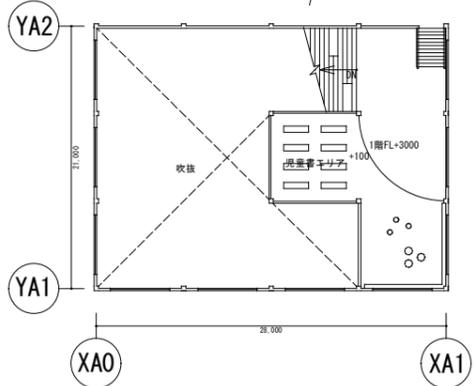
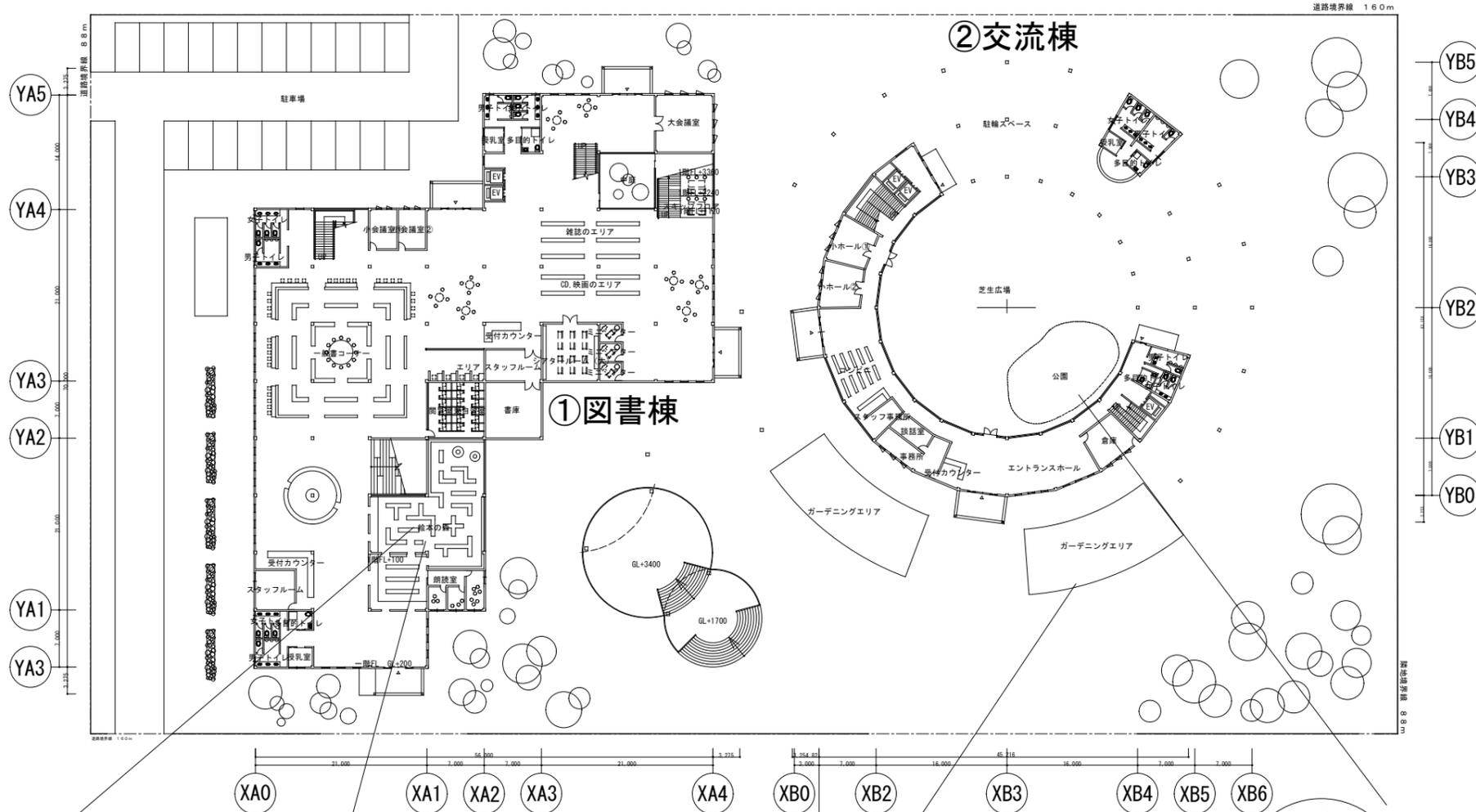
児童書・一般書コーナーとともに、誰もが利用しやすい自習室、本棚の裏やスキップフロアを利用した閲覧スペース、シアタールームや音楽ホールも併設されている。三階の「企画展示室」は、誰もが自分の作品を展示できる小さな美術館に。

「参考書エリア」の本は学生の勉強の力になり、会議室が開いている日は、複数人での話し合いや勉学に利用可能。天気が良い日は屋上で本を読むのもいいだろう。



図書棟 児童書エリア

正面入り口から図書棟に入ってすぐのエリアは児童書コーナーとなっている。ほかのエリアよりも低い天井と、本棚で囲まれた「絵本の森」。親子で周りの目を気にすることなく絵本を楽しめる個室の「朗読室」。階段を上がれば、吹き抜け空間が広がる。これらのコーナーは靴を脱いで過ごすため、読みたい本を手に取り、その場で座り込んでみることが出来る。

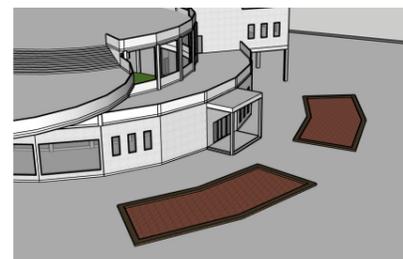


図書棟 1.5階平面図 1/400

①図書棟

②交流棟

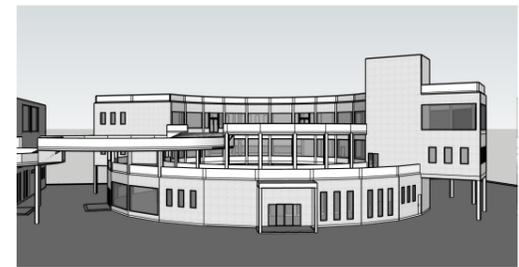
1階平面図兼配置図 S=1/500



ガーデニングエリア

管理するのは施設職員ではなく「ステップ」を利用する人たち。花上のイベントなどを通して、交流館の入り口を自分が作る。季節の花が生き生きと咲く花壇エリア

②交流棟



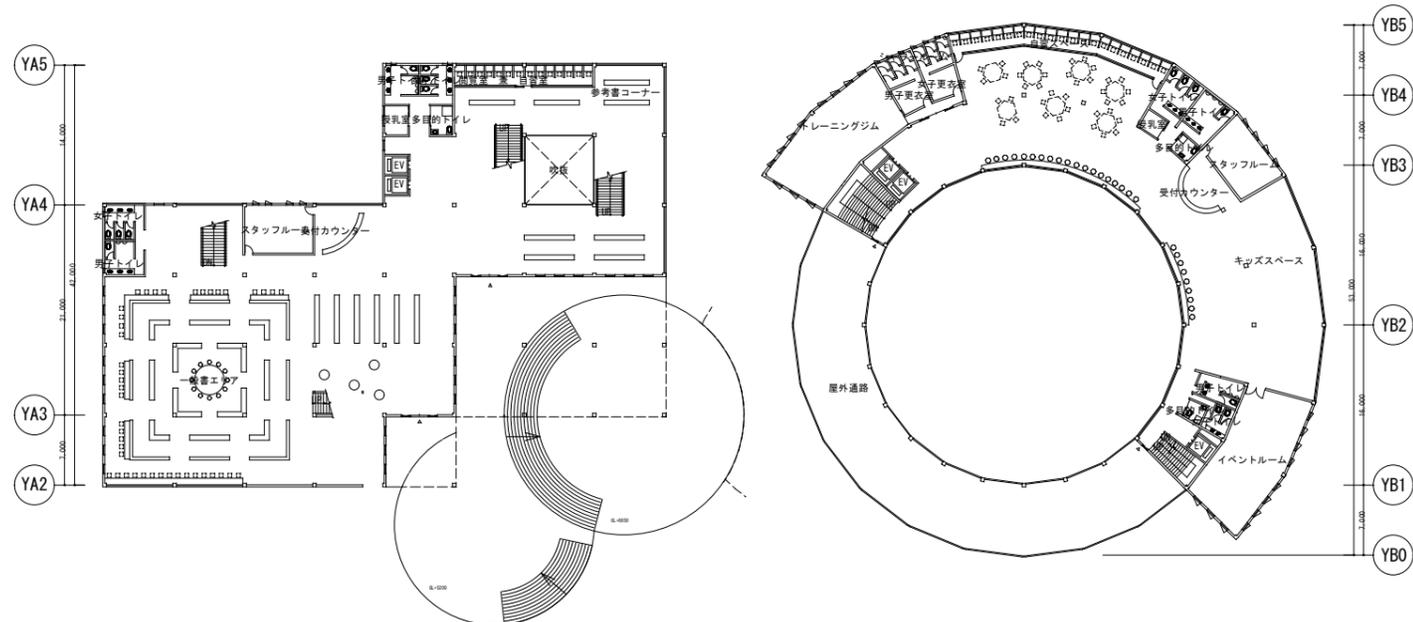
半円形型が特徴的なこの建物は、人と人との繋がりが生まれる空間として機能する。主な目的はイベント利用や、誰かにとっての「憩いの場」となること。

一階はこれからこの建物を利用する人のための場所。二階は常にだれかの声が聞こえる「動」のエリア。三階は広範囲が机といすだけの開けたスペース。何も無いからこそ、何でもできる場所。

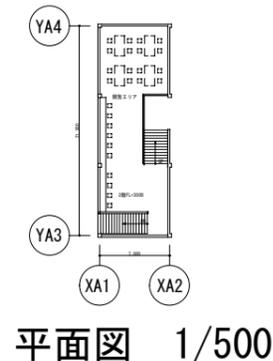


交流棟 芝生広場と遊具

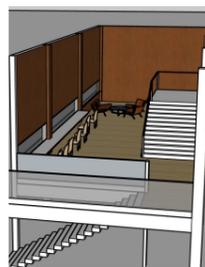
交流棟内側部分は芝生広場となっており、一部遊具が設置されている。大階段が屋根の役割も兼ねているため、天候を気にすることなく遊びまわることができ、真夏の直射日光も避けることができる。



交流棟 2階平面図 1/500



平面図 1/500



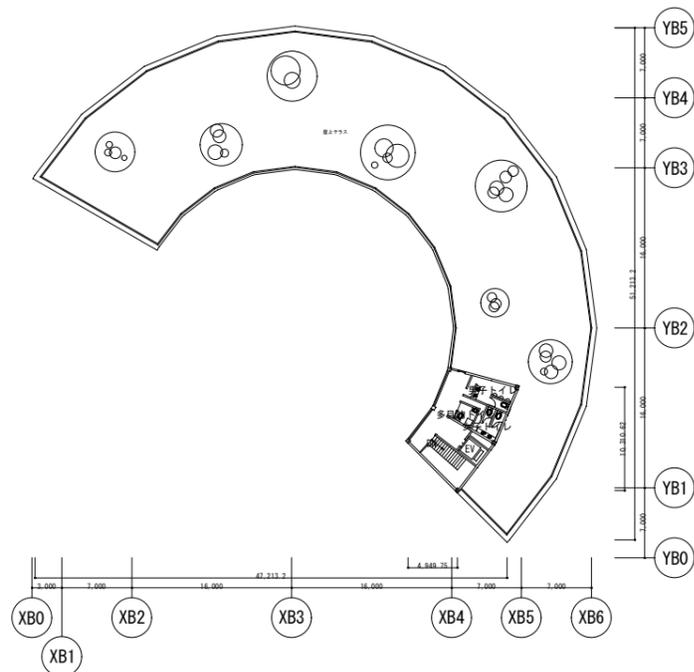
図書棟 2.5階閲覧スペース

図書棟の二階と三階の間にある空間。
ガラス窓から二階の図書スペースの様子が見える一方で、二階から見ると壁に囲まれているため、まるで秘密基地のような空間に。



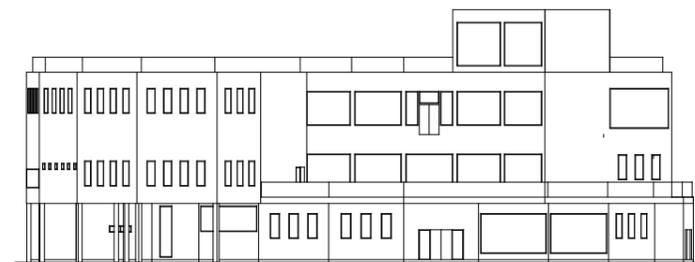
交流棟 屋上テラス

だれでも自由に上がることのできる屋上テラスには植物が植えられており、町の中でわずかながらにだが自然を感じる空間となっている。カフェで買った食べ物とともにピクニック気分を味わうのも、図書棟で借りた本をゆっくり読むもいいだろう。



交流棟 4階平面図 1/500

「図書棟」と「交流棟」の「学び」つながり



交流館東側立面図 1/400

「図書棟」で借りた本を「交流棟」で読む。
「交流棟」で行われるイベントのための準備として、「図書棟」の資料を利用する。
そんな単純なつながりも……。

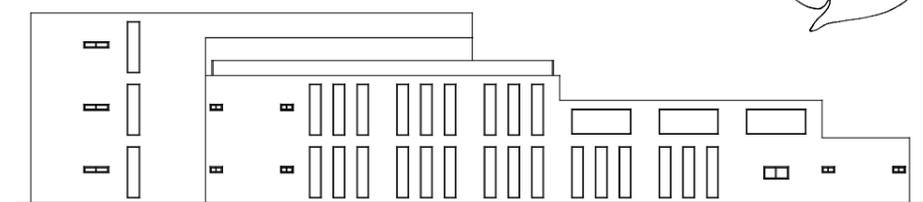
体験的な学び

広場で体を動かし、家族や友達と料理に挑戦し、イベント等の参加を通して人とのつながりを知る。
企画者側に回ってみるのもいいかもしれない。

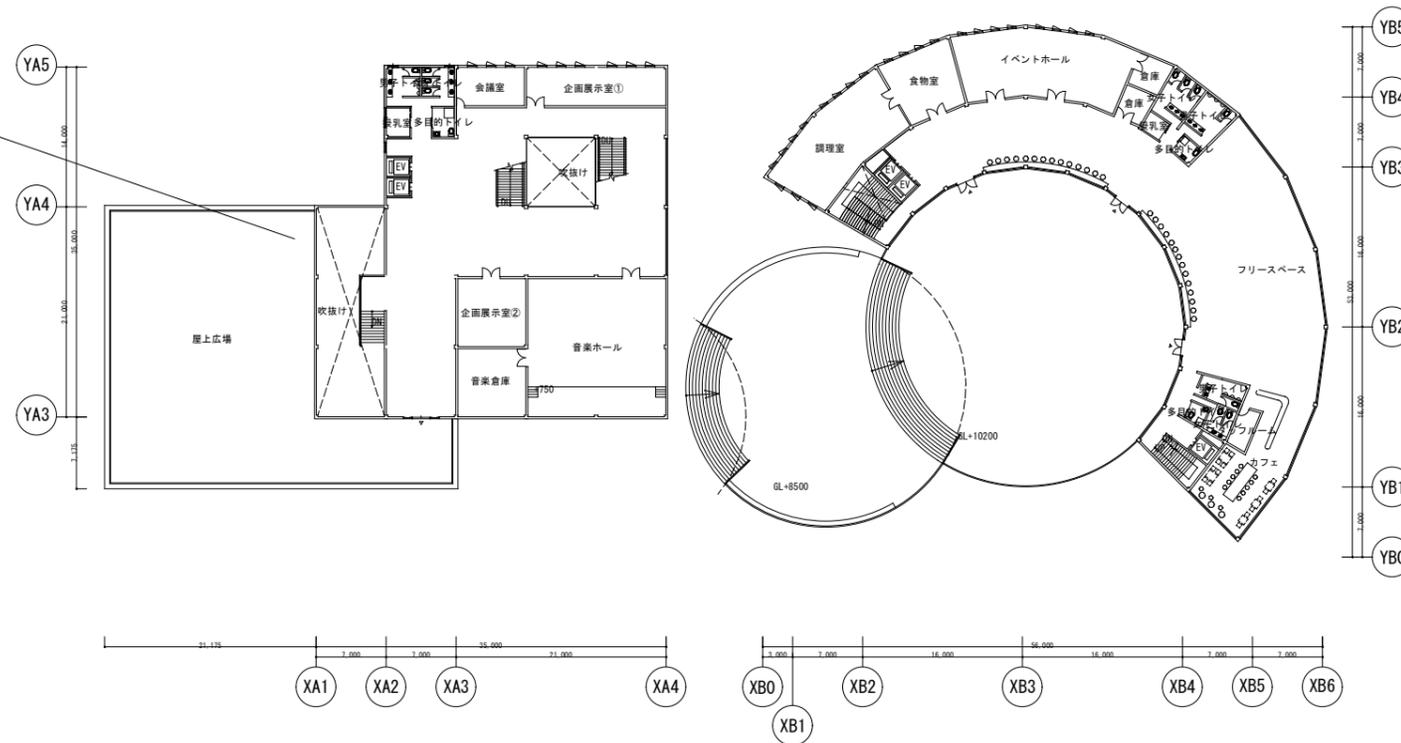


知的な学び

「図書棟」では児童書から一般書、参考書や専門書など多くの本の閲覧が可能。
幼少期からコンに触れることで、たくさんのものに興味を示し、探求する力を身に付けてほしい。



図書棟東側立面図 1/400



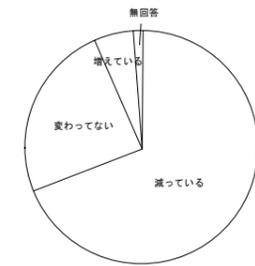
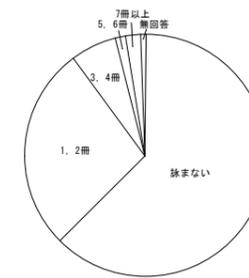
交流棟 3階平面図 1/500



北側立面図 1/250

「ステップ」の目的

①本を読む人との増加



一か月に読む本の冊数

読書量の変化

上のグラフは文化庁が16歳以上の人物6000人に対して行った調査の内容である。この結果は2023年のものであり、本を読む人は年々減少傾向にあるという。理由は時間の無さや他に魅力的なものが多いなど様々だが、多くの人にとって読書が楽しいものになってほしいと思い、図書棟を設計した。

②交流の場の増加

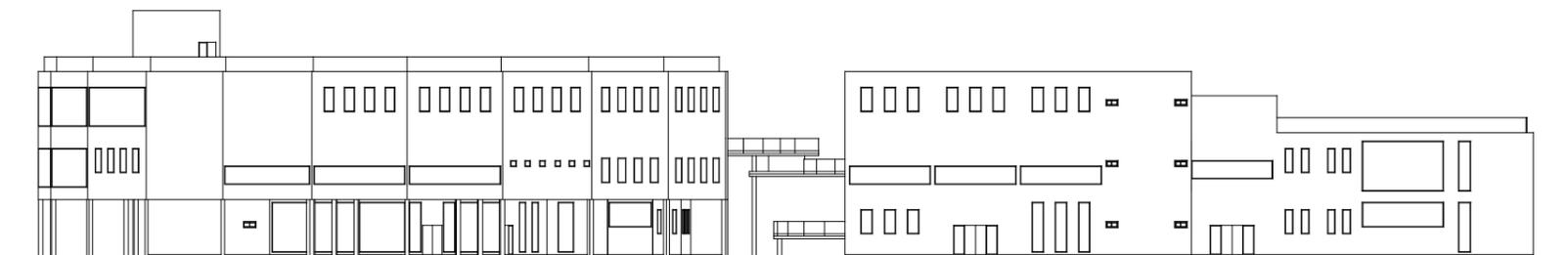
インターネットの普及が拡大する現代では、多くの人と交流を持つことは難しいことではない。一方で、他者との繋がりへの第一歩がすべてネットスタートになってしまうのは少し寂しいと私は感じている。そのため毎日通いたいと思うような場所があれば、そこで出会う人とのつながりが生まれやすいのではないかと「交流棟」を設計した。

構造	鉄骨造	
敷地面積	14,080㎡	
建築面積	図書棟	2255㎡
	交流棟	1507㎡
	合計	3762㎡
延べ床面積	4958㎡	
最高高さ	20.2m	

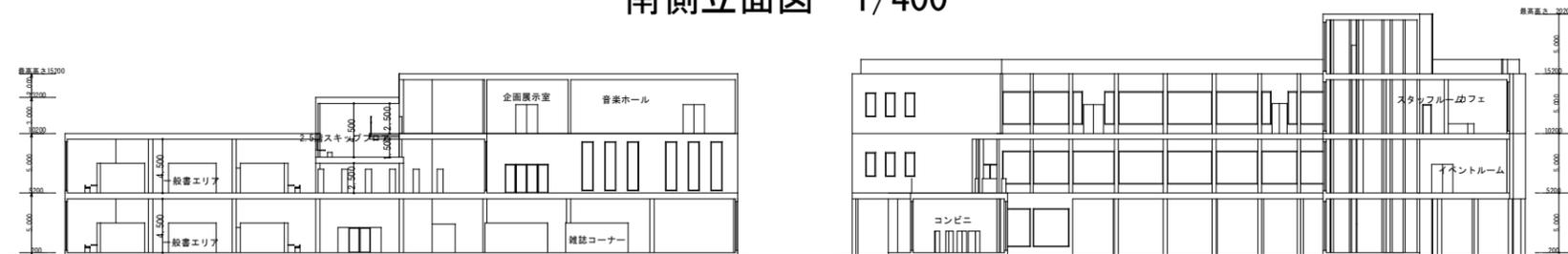


大階段

地上と「図書棟」、「交流棟」を繋ぐ「大階段」は「ステップ」のシンボリックな役割を果たす。六つの円が階段で結ばれ、たどり着くのは「交流棟」の三階部分。最大半径16mの円は、「交流棟」の中と外の空間を繋ぎ、イベント時にはステージや広場として、平常時には子供たちが走り回り笑い声が響くような空間となる。また、芝生広場の屋根の役割も兼ねているため、雨天時であっても屋外での活動が可能となる。



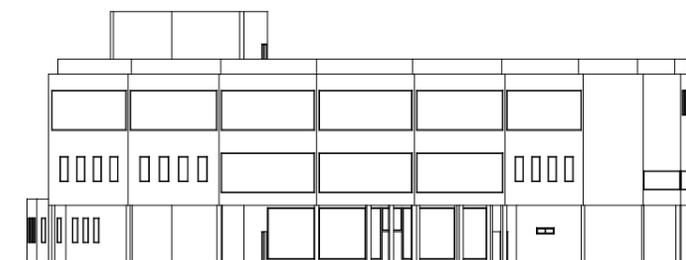
南側立面図 1/400



A-A断面図 1/400



図書棟西側立面図 1/400



交流館西側立面図 1/400